

★薬用作物の販路開拓中★

～薬用作物の新たな産地を目指して～

岐阜市では、国産の薬用作物に対する需要の高まりを機会として捉え、歴史的背景、農業の振興、耕作放棄地の解消を背景として薬用作物産地化への取り組みを進めています。

※「日本書紀」に“天武天皇時代（685年）、天皇の病気を治療するため、百済の僧ら2人を美濃の国に送り、薬草（オケラ）の煎じ薬を作らせた“などの記述があることから、美濃の国「ぎふ」は製薬業発祥の地とされています。

これまでの産地化に向けた取り組み

- ・薬用作物産地化調査プロジェクト会議（H26年度）

有識者を招聘し、産地化への進め方について協議

- ・薬用作物産栽培推進会議（H27～H28年度）

産地化に向けた課題解決の方向性を協議

- ・岐阜市薬用作物栽培協議会の設立（H27.1）

薬用作物栽培に意欲のある8事業者が参加して設立

- ・岐阜市、東京生薬協会、基盤研との連携協定締結（H27.3.27）

5ヶ年計画で、東京生薬協会の栽培指導のもと、種苗の増産、栽培技術、修治技術を確立

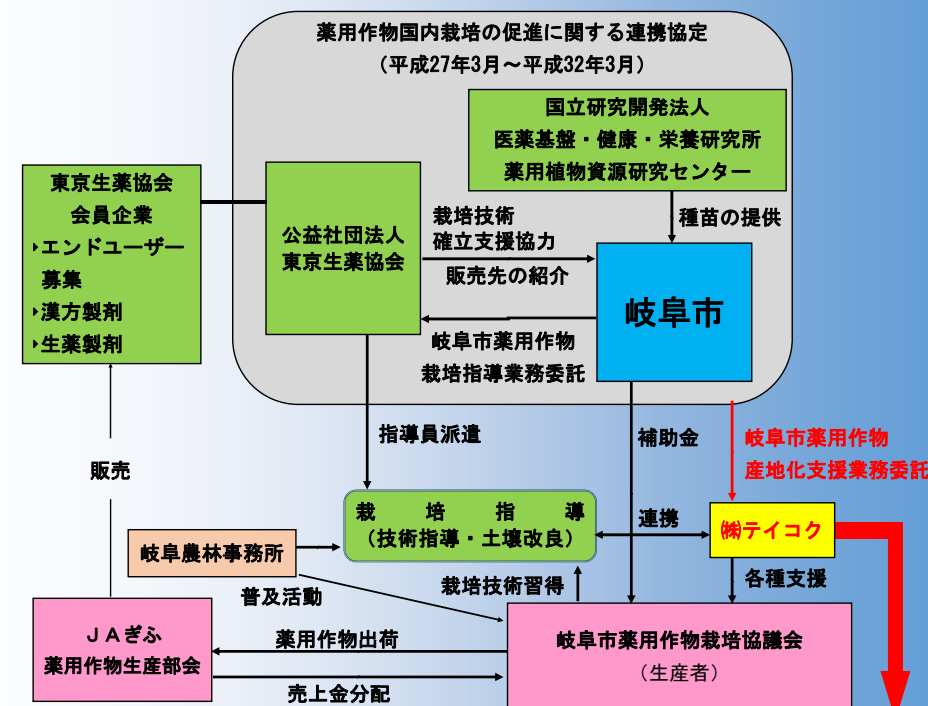


- ・栽培先行地等の調査

薬用作物の栽培技術や現地が抱える課題等を調査し、岐阜市における今後の進め方の参考にするため国内の栽培先行地等を調査


- ・GACP講習会の開催
- ・生産者募集パンフレットの作成

推進体制



岐阜市より業務委託を受け、岐阜市版の栽培マニュアルの作成や企業ニーズの調査やPR活動、生産収支モデルを作成等の支援を実施

栽培品目

生薬名	キキョウ	サイコ	ハトムギ・ヨクイニン	インゲンコウ
生薬サンプル				
日本薬局法試験結果	・灰分：2.8%（基準4.0%以下） ・希エタノールエキス含量：41.2%（基準25.0%以上） → 適合 ※2016年12月22日試料提出	・乾燥減量：6.8%（基準12.5%以下） ・灰分：3.9%（基準6.5%以下） ・酸不溶性灰分：0.4%（基準2.0%以下） ・希エタノールエキス含量：29.5%（基準11.0%以上） ・総サリニン：0.81%（基準0.35%以上Dry換算） → 適合 ※2018年4月10日試料提出（出荷先企業における局方試験結果）	・乾燥減量11.0%（基準14.0%以下） ・灰分：1.9%（基準3.0%以下） → 適合 ※2015年12月11日試料提出	・乾燥減量7.6%（基準12.0%以下） ・灰分：7.3%（基準9.0%以下） ・酸不溶性灰分：0.2%（基準2.0%以下） ・エキス含量：15.8%（基準15.0%以上） → 適合 ※2016年11月8日試料提出
販売実績	—	生薬として出荷	販路開拓中	温州みかんの防腐抑制剤・入浴剤としてそれぞれ出荷

※その他にもジオウ、ビャクジュツ、ソウジュツ、トウキ、シャクヤク、バクモンドウ、バイモを栽培中

【問い合わせ先：(株)テイコク】
 住 所：岐阜県岐阜市橋本町2-8（濃飛ニッセイビル6F）
 TEL：058-214-3459（直通）

担当者：社会システムセンター まちづくり推進部
 田澤義之 tazawa@teikoku-eng.co.jp